安楽寺山門

八、安楽寺山門

所在　大字塙字上町

建立　文化年間（一八一〇頃）

間口二・五二メートル、奥行二・五六メートル、切妻造り、鉄板葺き（もと茅葺き）、六脚門。

旧町内の東方、上町の高台に建つ安楽寺は、天正年間の創立と伝えている浄土宗の寺院である。

この山門はその長い参道の登り口付近に建つものである。前後の粽付き角柱で大斗肘木を直接受け、二本の中柱で棟を支えて貫で前後を繋ぐ簡素な手法であるが、地棟中央部の上下には、板蟇股と飛竜の陽彫を取付けるなど装飾的な部分も備えている。

文化年間（一八一〇頃）、幕領であったこの地域の支配代官寺西重次郎が、家族の菩提寺（安楽寺）に対して寄進したと伝えており、その建立年のおよそが察せられる。

現状は礎石がコンクリート製に変更されているほか、扉は見当らず、屋根は垂木から上部が改造され、また、両脇の塀（板塀）は解体されているなど、旧姿の多くが失われている。

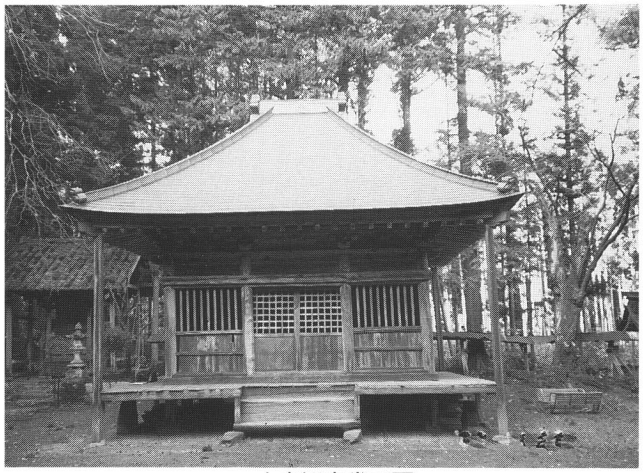
九、古宿観音堂

所在　大字伊香字古宿

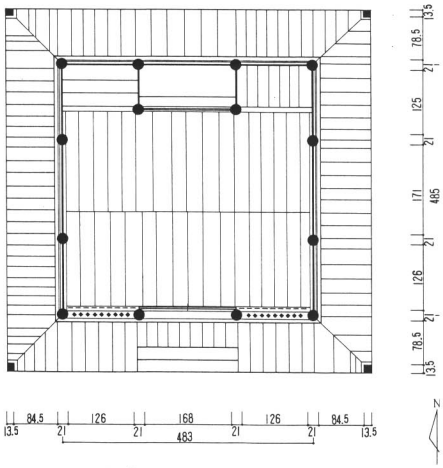
建立　寛保二年（一七四二）以前

方三間（間口四・八三メートル、奥行四・八五メートル）、寄棟造り、鉄板葺き（もと茅葺き）。

旧街道に沿った集落である古宿西方の杉林のなかに、南面して建ち、ほぼ正方形平面をもつ仏堂である。かつて所属した寺院は明治初年の廃仏棄釈で廃寺となり、その



古宿観音堂正面



古宿観音堂平面図